



二つの校区が一つになって誕生した白山小学校。今でも隣接する2小学校のPTAとの連携は深い

歴史に彩られた白山校区
道路の「白山通り」幹線とJR豊肥線が通り、商業地として発展してきた白山校区。古くは律令時代、肥後国の行政機関「国府」が置かれていた地域でもあります。一帯で行われた昭和37年の発掘調査では、土塁や水路跡、奈良時

小学校を核に、一体感と賑わいを生み出す
二つの校区が一つになったという歴史柄校区としてのまとまりは住民の大きな課題の一つでした。そのため、さまざまな行事を活用して地域の心をつなぐ努力を重ねてきました。

その一つが白山小学校開校の翌年から始まった「白山校区民大運動会」。白山校区体育協会の吉本安弘会長は「校区民運動会は、平成25年で52回目を迎えました。現在まで一度も途切れることなく続いています。参加者は毎年1000名程度。校区の状況に合わせて、最近は小中学生対象や高齢者対象の新しい競技も増やしています。特に、最後の親子リレーは、小学生から大人までが町内対抗で走り、大変盛り上がります」と語ります。開催にあたっては、テント張り、グラウンド整備など、校区の人たちがさまざまな立場で協力しています。

また、加藤清正が築造した農業用水路大井手の分水、一の井手も校区内を通っており、農地としても重要な場所でした。そんな白山校区に小学校が開校したのは、昭和35年4月。白川小学校区と出水小学校区の一部が分離独立して、白山小学校が誕生しました。

夏休みには、子どもたちを主役とした行事が続きます。まずは白山小学校の校庭で行われる「盆踊り大会」。平成25年は1600人が参加しました。青少年健全育成協議会が主催する毎年恒例のクリーン作戦「タバコ・空き缶ポイ捨て、ダメダメキャンペーン」も人気の行事。早朝6時30分に白山小学校に集合し、子どもたちやPTA、町



肥後国府の東南の端にあたりとされる「白山神社」。熊本市でも有数の神社で古くから信仰が厚かった



地域の行事を活かして 住民の心をつなぐ



子どもたちも杵と臼でもちつきを体験する「もちつき大会」